

生野孝義傳

序

善人之産_二僻郷_一也、其猶_二金銀之産_一深山_二乎、苟非_レ有_二識而採_一之者、則舉世莫_レ知_二其爲_一寶也、但馬生野、自_二銀坑始開_一吾不_レ知_二其幾多年_一矣、官設_二府置_一吏、與_レ民分_レ利、而戶口蕃息焉、始識_二山之有_一銀而鑿_レ之者、其功不_二亦大_一乎、今之縣令勝田君、謂、地既富庶、不_レ可_レ無_レ教、乃擇_二可_レ爲_レ師者_一、予薦_二小川民徳_一、民徳司鐸三年、能稱_二其職_一、客歲丁未之夏、民徳奉_二君之意_一、採_二訪郷之善人_一、得_二孝義之民_一、若干人、君賞_二賜之_一以勵_二其餘_一、民徳於_二是各審_一其行實、記以_二俗文_一名曰_二孝義傳_一、欲_レ刊而傳_二之遠邇_一、而君許_レ之、夫生野非_二古者無_一善人_一、而今始有_レ之、其顯晦在_二人之識與_一不識、則民徳之功、可_レ謂_レ不_レ減、始識_二山之有_一銀而鑿_レ之者_一矣、且金銀之爲_二世寶_一一鑑止_二一鑑_一、抑人則異_二乎此_一矣、聞者感而興焉、見者慕而化焉、一郷之善、可_レ爲_二一國之善_一、一國之善、可_レ爲_二天下之善_一、善人之爲_二世寶_一、豈金銀之所_レ可_レ比乎哉、是民徳之所_レ以欲_レ刊_二行是書_一、而君許_レ之、予安得_レ不_レ序_二其美事_一、而擡_レ揚之_一哉、

嘉永元年嘉平月

浪華小竹學人篠崎弼撰并書

清少納言のさうしに、あはれなる物といふくだりに、けうある人の子をかぞへられたる、まことにさることなり、すべて孝のみにもあらず、まめやかなる人のやつこ人のめなどの、くるしき道にも、いとよくたへす_地過_として、いつくべき人のために、身をもわすれていそしびたるもの、いづれかあはれならざらむ、されども世中の、とありかくあるならはしの、はしたなきに打まぎられて、そのあはれのかぎりをつくす人、いくばくかあらむ、さるをこたび、たぢまの國いく野のさとに、さるあはれ人あなりとて、おほやけよりほめさせ給へりし事_本末_とを、かしてなるからまなびの師小川氏より、わが友春日願がもとにしろしおこせて、かんなぶみにしろさんことを、おのれにあつらへこはる_本まに、はじめよりつぶ_曲々_とよみもてゆくに、げにいと心ぐるしく、あはれなるかぎりにて、おに神もほとく_本なきつべくおもほえて、先ほろ_ととこぼれぬかし、されば筆のつたなきはさる物から、これはしかいみじくあはれなる人のためにするなれば、さばかりいなむべきことにもあらずと、われたけくなりて、さとびぶみにうつしか、んとするに、文詞のかざりなど、今すこし心をやりてたくみなば、事がらのあはれさも、たちまざるべくおほゆれど、さてはまめやかにいとなま_替れたる、小川氏のこゝろにも、かへりてはそむきつべければとて、いさ_もかもつくるはず、またいさ_もかももらさず、ありのまゝにうつして、春日がりかへしやりつ、あはれこのふみの、世中にみ_充らひろごりて、このいみじくあはれなる人どもをほん_本として、さがなき人の子、ひとのやつこらが、ものゝあはれしるたづ